

# カンショの雑草は除草剤の体系防除で抑制できる（檜葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 甘藷栽培における効果的な除草方法の実証（檜葉町）

担当者 三本菅猛、小野 司

## I 新技術の解説

### 1 要旨

営農再開地域では土地利用型作物としてカンショ栽培が注目されているが、雑草の繁茂により減収するほ場が多く、栽培上の問題となっている。耕うん・マルチ後速やかに定植（挿苗）し、除草剤による体系防除を実施することで、初期の雑草繁茂を抑制することができる。また、マルチの植穴サイズを小さくすると、植穴の雑草繁茂を抑制できる。

- (1) 耕うん・マルチ後、期間を置かずにカンショ(供試品種：「ベニアズマ」)を定植し、畦間に対して、定植4日後に除草剤ペンディメタリン乳剤(ゴーゴーサン乳剤)(使用量：10a 当たり 400ml、散布液量：10a 当たり 100L)を散布し、定植18日後にグルホシネート液剤(バスタ液剤)(使用量：10a 当たり 500ml、散布液量：10a 当たり 150L)を散布した(図1)。
- (2) 除草剤処理した畦間は、雑草の発生が少なく、初期の雑草繁茂を抑えることができた。以降は、カンショの生育により雑草の繁茂を抑制できた(図2、図3)。
- (3) マルチの植穴を慣行(直径40mm)より小さくする(直径16mm)ことで、植穴の雑草発生を抑制できた(図4)。

### 2 期待される効果

- (1) 営農再開に向けたカンショ栽培において雑草繁茂を抑制する栽培管理の参考となる。

### 3 活用上の留意点

- (1) ペンディメタリン乳剤(ゴーゴーサン乳剤)は雑草の生育が進んでいる状況では効果が急激に低下するので、雑草発生前(適用時期：挿苗10日後まで)の畦間の土壌に散布する。
- (2) グルホシネート液剤(バスタ液剤)の薬液が作物に付着すると薬害が生じるので、付近の農作物等に飛散しないように十分注意して畦間の雑草の茎葉に散布する(適用時期：収穫14日前まで)。
- (3) 農薬の使用に当たっては、農薬のラベルを必ず確認し、農薬使用基準を遵守する。

## II 具体的データ等

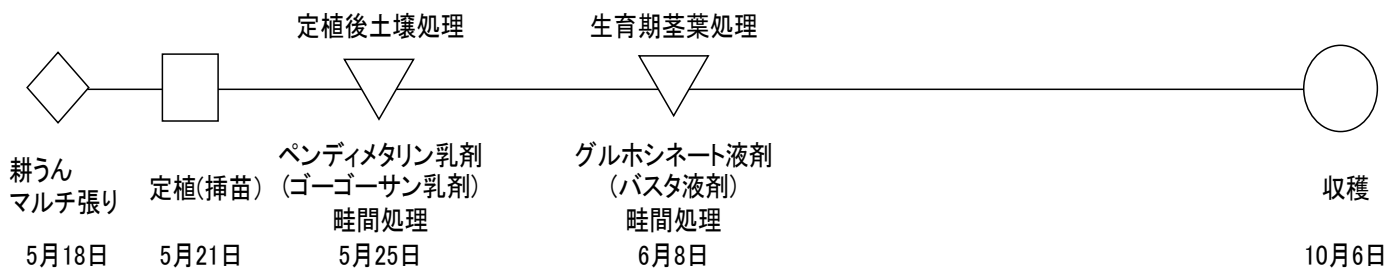


図1 除草剤防除体系

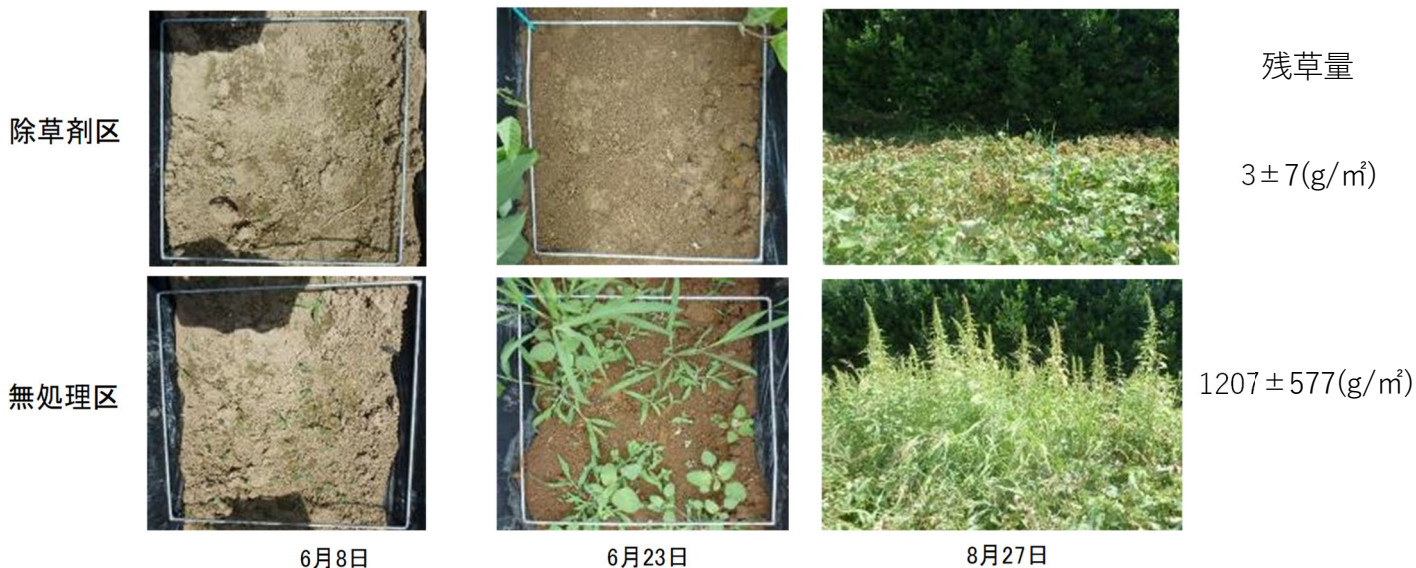


図2 雑草発生の経過と残草量

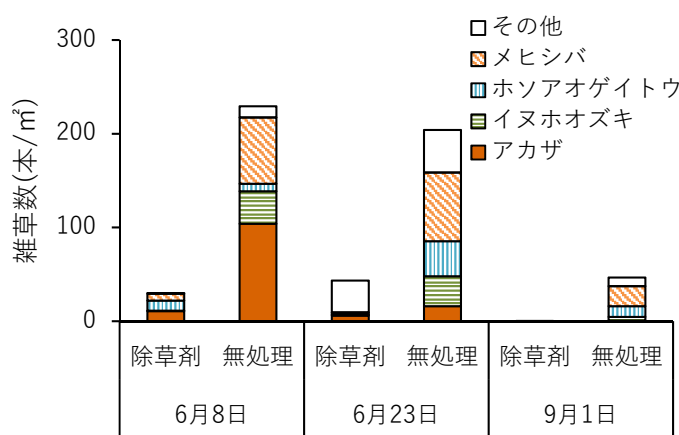


図3 畦間の雑草発生

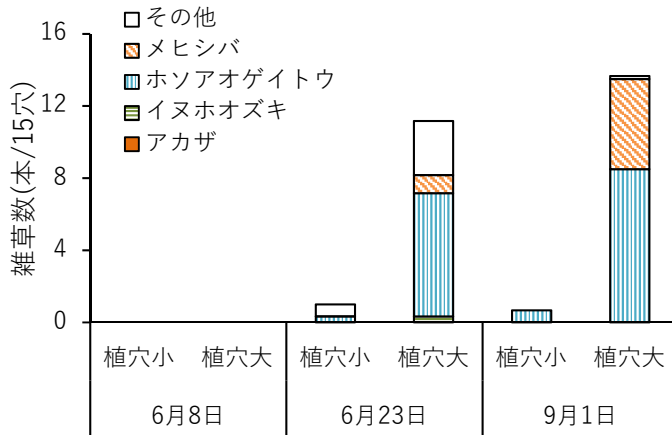


図4 植穴の雑草発生

※無処理区の雑草数が減少したのは、かんしょの繁茂が影響している。

## III その他

### 1 執筆者

三本菅猛

### 2 実施期間

令和2年度

### 3 主な参考文献・資料

なし